

大阪薬科大学報



Osaka University of Pharmaceutical Sciences

2007年（平成19年）12月14日発行

目 次

第57回日本薬学会近畿支部総会・大会を開催して	組織委員長 栗原拓史	1
ハイテク・リサーチ・センター整備事業		
.....創薬基盤科学技術研究センター長	小林祐次	3
.....大阪薬科大学ハイテク・リサーチ・センター長	松村靖夫	4
平成19年度前期授業・実習評価アンケート	教務部長 辻坊裕	5
平成19年度公開教育講座を終えて	公開教育講座委員長 掛見正郎	7
平成19年度市民講座を終えて	市民講座委員長 天野富美夫	8
平成19年度進路・就職状況（中間報告）	キャリアサポート部長 田中一彦	9
第42回大薬祭を終えて	学生部長 藤田芳一	10
第3回 特待奨学生表彰（学部・大学院）	学生部長 藤田芳一	12
学生相談室だより	学生相談室相談員 二宮ひとみ	12
海外留学報告	生薬科学研究室 講師 芝野真喜雄	13
各課だより		15
薬用植物の紹介（喜樹）	薬用植物園長 馬場きみ江	

第57回日本薬学会近畿支部総会・大会を開催して

組織委員長・学長 栗原 拓史

第57回日本薬学会近畿支部総会・大会が2007年10月27日（土）本学で開催された。2000年のミレニアム50回大会に次いで、ここ高槻キャンパスで2度目の開催である。昨年10月中旬に学内薬学会会員への最初のアナウンスに続いて、例年通り一般学術講演8部会の各教授（有機化学：春沢，生薬・天然物化学：馬場，生物化学：辻坊，医療薬学・薬剤学：掛見，衛生化学：天野，薬物治療・薬理学：松村，分析化学：千熊，物理化学：石田）を責任者とし、本学幹事の池田教授とからなる委員会が組織され、組織委員長に私が就任することになり、開催日：平成19年10月27日（土）、一般講演は12分（発表9分、討論3分）とすることなどが決定された。今年1月の第2回委員会で、特別講演の演者として末松誠教授（慶応義塾大学医学部医科学教室）に依頼することが決まった。

一昨年の55回大会から全ての申込受付がウェブ上で、さらに昨年から発表もプレゼンテーションソフトを用いて行われるようになったことから、前開催校の京都薬科大学から多くのノウハウを受継ぐことができたのは幸いであった。さらに、実働委員として、各分野から若手の先生方（井上、友尾、宇佐美、藤井、宮崎）及び情報化推進委員会から土井光教授にも加わっていただき、IT化に対応した強力な布陣が整った。



6月初旬に57回総会・大会のホームページ（HP）を立上げ、ファルマシア5、6月号に当日の予告掲載がされた後、6月20日～7月20日に大会申込受付登録・要旨登録が電子メールで行われた。その後、プログラム編集、座長依頼書送付、ファルマシア10月号掲載原稿



送付、HPにプログラム掲載、プログラム冊子納品等々を経て、講演要旨集が10月19日に納品され準備が整った。この間の全ての作業は藤井講師の献身的な努力によって達成された。最終的に、支部奨励賞受賞講演4題に加え、支部奨励賞応募演題12題を含む一般学術講演158題の申し込みがあったものの、若干少ない感は否めなかった。

今大会は、本学薬学会会員のみで全ての準備を進めること、企業広告などを一切掲載しないこと、支部本部からの交付金と当日の参加費・懇親会費のみで運営することを基本方針としたため、先が見えない様々な不安に苛まれながらのスタートであった。しかも、今年度から本部から指定された「会計処理指針」に従って、支部大会での会計処理をより明確にかつ統一することが義務付けられたので、指定の様式の書類で総ての会計処理を行わねばならなくなり、一言で言えば大変面倒なことになった。しかし、そうした不安を払拭することが出来たのは、池田教授のこと細やかな采配と配慮に加え、委員の先生



方の並々ならぬご努力によるものであった。特に、前大会のコンベンション・サービスを上回る諸々のアイデアとPCの豊富な知識と技能を駆使して、万全の下準備をしていただいたのは井上准教授であった。

10月15日、学内関係者への学会当日の役割分担、事前事後を含めた業務、各会場の見取り図（総合受付、クローク、PCセンター、一般講演会場、総会及び特別講演会場、懇親会場）など詳細に準備された運営マニュアルに基づいて藤井講師からの説明と質疑が交わされ、学会前日夕刻から開始される設営に向けた心の準備が整った。26日（金）の授業が終了した会場から、順次設営が開始されたが、万全の下準備のお陰と会員各位のご協力で、極めてスムーズに準備作業が整ったことも驚きであった。

当日は朝がた雨模様であったが、一日、曇ったり、降ったり、時には日が射し、美しい虹までが顔を見せるなど不安定な一日であった。午前9時半過ぎから一般講演が始まり、12時に午前の部が終了、20分から支部総会が開催された。組織委員長、半田支部長の挨拶の後、予定されていた審議事項が承認を受け、最後に内藤次期支部長が今後の抱負を述べ閉会した。各会場とも、PCセンターでの事前チェックもあって、演者やPCの引継ぎなどにトラブルもなく、極めて順調にほぼ予定通りに全ての一般講演、受賞講演が終了した。

4時25分から、末松教授による「網羅的代謝解析技術を用いたガス分子による生体制御機構の系統的探索」と題する特別講演が行われ、49歳の若さ溢れるよどみない口調で、ガスバイオロジー分野で世界をリードする先生の最先端のご講演を息詰まる思いで興味深く拝聴す

ることができた。10月から医学部長という激務の中、遠路東京からのご来学であり、衷心より感謝申し上げる次第です。また、天候不順にもかかわらず、一般参加者272名を含む総数556名の皆様並びに座長（48名）、支部奨励賞審査委員（17名）をお引受けいただいた先生方に厚く御礼申し上げます。

特別講演終了後、食堂において懇親会が開催された。末松教授、顧問の伊藤先生（神戸薬科大学元学長）をはじめ70名近い学外の先生方に加え、学内から多数の教職員が参加される中で、私から歓迎の挨拶、半田支部長のご挨拶に続いて、本学千熊教授による乾杯の発声で和やかな宴が始まった。途中、次回開催校の神戸薬科大学を代表して、次期支部長の内藤教授から予告を含めたご挨拶を頂戴し、中締めとなった。

終わりに、本会の開催にあたり、運営全てにわたり取り切られた池田教授と諸々の準備に奔走された井上准教授、藤井講師並びに全面的にご協力いただいた学内薬学会関係各位、アルバイト学生及び手助けくださった5名の事務職員の方々に心より感謝申し上げます次第である。



ハイテク・リサーチ・センター整備事業

“創薬基盤科学技術研究センター”がハイテク・リサーチ・センタープロジェクトとして新規採択

創薬基盤科学技術研究センター長 小林 祐次

本学ではこの度、新規に文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業であるハイテクリサーチセンター整備事業の一環として、平成19年度より23年度までの5年間「生活習慣病を標的とする分子構造と分子間相互作用の情報に基づく合理的創薬システムの開発」をテーマに“創薬基盤科学技術研究センター”の開設が認められました。

物理化学を重視し、ゲノム科学の発展により実現が可能となったX線結晶解析やNMRを初めとする種々の分光法を用いた構造生物学で多くの業績を挙げて来たことは本学の特徴の一つと云えます。この実績に基づき、今大きな問題となっている生活習慣病を標的とする創薬システムの開発を目標としています。構造情報に基づく合理的創薬(SBDD)は、かつて大学および製薬業界がこぞって試みた手法でありましたが、数少ない例外を除いて多くは当初に目指した成果が得られず、その事業からの撤退または縮小を行っているのが現状かと思われま。このSBDDの手法が旨く機能しなかった原因は多くの場合、受容体や酵素と云った対象分子に対し阻害剤等の薬剤候補となる低分子の設計において、両者が強く結合することを強調し、水素結合やイオン結合を多くすることのみを考えて来たことによると思われま。分子間相互作用は $\Delta G = \Delta H - T\Delta S$ の熱力学法則により規定されることから、これら ΔH の項のみを考慮した設計では不十分であった訳です。本研究では、本学でかねてより基礎、臨床の両面から研究を行ってきた生活習慣病に関する成果に基づき、関連する蛋白質の精密な構造情報とエントロピー、エンタルピーといった定量的な分子間相互作用に関する情報を総合して用いる合理的創薬のシステムの開発とその応用を目指します。

9月18日には本学で、このセンターの開設を記念してシンポジウムを伊倉光彦(トロント大学)、宮田敏男(東海大学)、松澤佑次(住友病院)、児玉龍彦(東京大学)の諸先生を講師としてお招きし開催しました。学内外から200名近い参加者があり懇親会を含め非常に盛会でした。



大阪薬科大学ハイテク・リサーチ・センター
創薬基盤科学技術センター開設記念シンポジウム

平成19年9月18日(火)

《プログラム》

- 13:20 世話人挨拶 小林祐次(創薬基盤科学技術研究センター長)
- 13:30 伊倉 光彦 教授(トロント大学オンタリオ癌研究所)
「細胞内カルシウムイオンの制御機構—細胞死のメカニズムを探る」
- 14:30 宮田 敏男 教授(東海大学総合医学研究所)
「合理的創薬システムに基づく大学からの創薬: Serpins (megsin, PAI-1 inhibitors) の開発」
- 15:30 ~ 16:00 休憩
- 16:00 松澤 佑次 院長(財団法人住友病院)
「Patient-oriented research と治療開発」
- 17:00 児玉 龍彦 教授
(東京大学先端科学技術研究センターシステム生物医学)
「ゲノム抗体創薬によるがん和生活習慣病の診断と治療の統合的開発」
- 18:00 挨拶 栗原拓史 (大阪薬科大学 学長)
- 18:30 懇親会



ハイテク・リサーチ・センター整備事業成果を踏まえ継続採択

大阪薬科大学ハイテク・リサーチ・センター長 松村 靖夫

本学では、平成14年度から平成18年度までの5年間、文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業であるハイテクリサーチセンター整備事業に採択され、「DNA・RNA結合分子を標的とした疾病の発症機序の解明とその診断・予防および治療薬の開発への応用」と題したプロジェクト研究を大学一丸となって遂行してきました。5年間にわたって本研究事業を推進する過程において、毎年度末には学内外のシンポジストによる公開シンポジウムを開催するとともに、各研究プロジェクト項目担当者によるポスター発表会を行い、研究成果報告書を作成してきました。各年度毎にプロジェクト参加者の若干の変更もありましたが、最終的には26名の研究者により当初の目標をほぼ達成することができ、研究成果報告書として提出しました。各研究項目は、以下の通りであります。

- 項目Ⅰ 単離したDNA・RNA結合タンパク質のX線構造解析と疾病に関連する機能の研究
- 項目Ⅱ DNA結合複合体の酵素活性調節や免疫賦活作用の研究
- 項目Ⅲ DNA・RNA結合分子の疾病における変化のプロテオーム解析
- 項目Ⅳ DNA・RNAに結合する金属錯体や天然物の抗がん活性または抗微生物活性の研究
- 項目Ⅴ 疾病の発症機序の解明ならびに診断・予防および治療薬の開発への応用
- 項目Ⅵ DNA・RNA結合活性を有する薬物の体内動態の研究
- 項目Ⅶ 生体微量成分の分析法の開発

さらにこの度、本研究事業全体を統合してより高い成果をあげるため栗原拓史学長を研究代表者として3年間の継続申請を行ったところ、無事採択されることとなりました。この継続申請の採択は、これまでの活動や各研究項目の実績が高く評価されたものと思われまます。本年度から3年間にわたって各研究項目を継続推進することにより、各グループのこれまでの研究成果や研究技術を連繋させ、最終的な目的とする「より効率的な疾病の診断法の開発及び予防・治療に有効な薬の創製」にさらなる成果が得られるものと期待されます。

今後3年間の研究計画・研究方法については、上記7項目の体制を原則的に踏襲するものの、各項目での研究成果の内、今後3年間で本事業の目的達成が最も期待できる具体的な研究項目に絞りを、研究人員の再配置と研究費の重点的な配分を含めて、集中的に取り組む必要があると思われまます。また必要に応じてポストドク制度を積極的に活用することも計画しています。

本研究事業を通じて、本学の学術研究活動にさらなる発展につながることを願っています。

なお本年度は、小林客員教授を研究代表者とした「生活習慣病を標的とする分子構造と分子間相互作用の情報に基づく合理的創薬システムの開発」もハイテクリサーチセンター整備事業として新規に採択されており、右記の予定で、合同シンポジウムを開催いたします。関係各位の参加をお願いする次第です。

大阪薬科大学ハイテク・リサーチ・センター 平成19年度合同公開シンポジウム

平成19年12月8日(土)

≪プログラム≫

午前の部：創薬基盤科学技術研究センター

9:50 挨拶 小林 祐次(創薬基盤科学技術研究センター長)

10:10 山本 博 教授(金沢大学大学院医学研究科)

「糖尿病血管合併症の分子標的としてのAGE-RAGE」

11:00 小林 祐次 教授(大阪薬科大学)

「創薬を目指したAGE-RAGEの分子間相互作用の解析」

12:00～12:50 休憩・～ポスターセッション～

午後の部：DNA・RNA結合分子を標的とした疾病の発症機序の解明とその診断・予防および治療薬の開発への応用(継続)

12:50 挨拶 松村 靖夫(ハイテク・リサーチ・センター長)

13:00 春沢 信哉 教授(大阪薬科大学)

「機能性C4(5)-イミダゾール誘導体の創製研究：ヒスタミンH₃、H₄リガンド及びRNA触媒プローブへの応用」

13:45 張 功幸助教(名古屋市立大学大学院薬学研究科)

「二重鎖DNAを標的とする機能性人工核酸の開発」

14:30～15:30 休憩・～ポスターセッション～

15:30 井尻 好雄 准教授(大阪薬科大学)

「CpG-DNAとLPSがdigoxinの体内動態に及ぼす影響の違いについて」

16:15 東 純一 教授(大阪大学大学院薬学研究科)

「ゲノム薬理学の臨床応用」

17:00 懇親会

平成19年度前期授業・実習評価アンケートの結果を報告いたします。6月29日発行の「大阪薬科大学学報」55号でお知らせしましたように、教務部委員会において、授業評価アンケート回収率の改善策について検討しました。具体的には、各教員に授業評価アンケートの実施時期、および工夫された点などについてアンケート調査を行いました。前回実施しました授業評価アンケートの回収率は、全学年では51.8%でありましたが、今回の授業評価アンケートの回収率は、全学年で61.4%であり、前回と同様に学年進行に伴い低下する傾向を示しました（1年次生、82.8%；2年次生、66.7%；3年次生、43.1%；4年次生、41.9%）。今回の回収率は、前回のそれと比べ9.5%増加しました。これは各教員が授業評価アンケートの回収率の改善に取り組んでいただいた結果であると考えています。

次に、今回のアンケート結果においては、前回（平成18年度後期）と同様に、ほぼすべての項目で比較的高い数値が得られました。このうち、設問項目13（あなたはこの授業によく出席しましたか）は、いずれの学年においても最も高い数値であり、一方、設問項目17（あなた自身、授業を理解するよう努力していましたか）は最も低い数値でした。この結果から、本学の学生は、一般に授業にはまじめに出席するが、授業で理解できないことを放置し、試験直前に対応する傾向が伺えます。このような対応では、知識が十分に身につかず、学年進捗とともにますます授業が理解できないことになりかねません。平成18年度以降の入学生が進級要件を満たすためには、特に注意が必要と思われます。これらの問題は決して容易に解決できるものではありませんが、学生が授業を理解しているかどうかを適切な時期にフィードバックし、丹念に指導すること（形成的評価）が教員に

求められているのかもしれませんが。各教員は、設問項目11（授業レベルはあなたにとって適切でしたか）および12（この授業を総合的に評価してください）の数値に注意を払わなければなりません。設問項目11については、難解な授業をするのではなく、本学の学生が一定の努力をすることによって到達できる授業レベルを設定することが必要であると思われます。設問項目12についても、各教員が授業内容のレベル、および授業方法について真剣に取り組まなければならないことを示しているものと思われます。

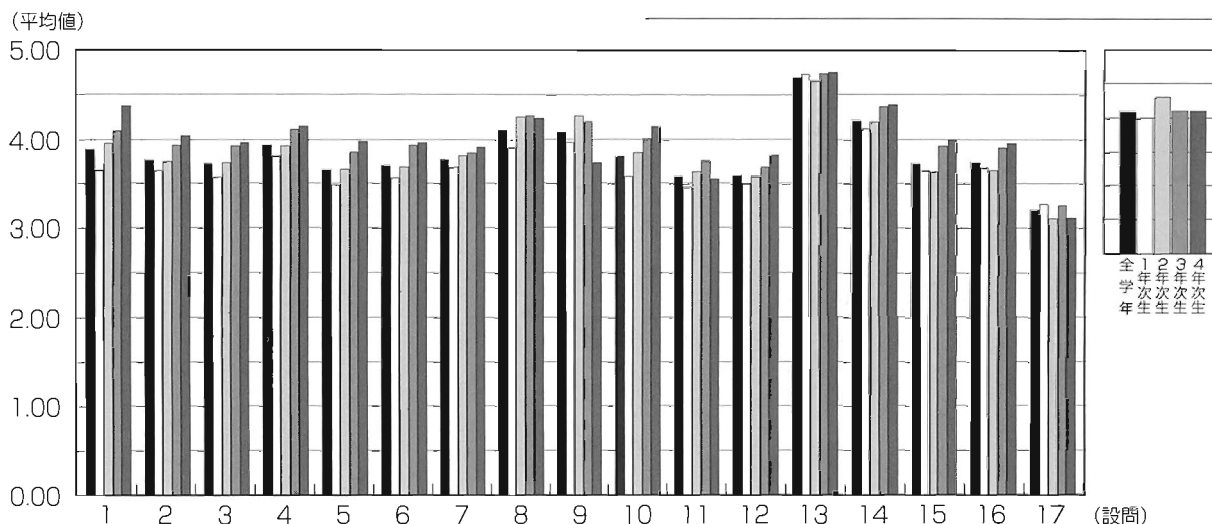
従来、アンケート結果は、全学年、または学年単位で公表されていましたが、個々の教員についてのアンケート結果は学生に公表されていません。この点に関しても、教務部委員会において議論し、アンケートを依頼している学生に結果を公表することが教育上必要であるとの結論に至りました。今回、公表に賛同された教員のアンケート結果は、教務課において閲覧できるようになりましたので、ご活用ください。本アンケート調査は、平成13年度から実施され、いくつかの改良を重ねつつ今日に至っております。本学における教員の教育活動の向上・能力開発に関して検討を行い、教育方法の研究・工夫を積極的に推進するために、FD（ファカルティ・ディベロップメント）委員会が新たに設置されました。今後、FD委員会が中心となり、授業評価アンケートの内容、実施方法、およびどのような形でアンケート結果を学生にフィードバックするかなどについて議論され、実施されるものと考えています。

教務部委員会は、学生にとって満足できる学習環境を提供できるよう、今後も努力していく所存であります。今後とも、ご協力を賜りますようお願いいたします。

平成19年度前期授業評価アンケート集計

	全学年	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
延べ履修人数	15,414名	4,656名	4,222名	4,829名	1,707名
延べ回答人数	9,467名	3,856名	2,817名	2,079名	715名
回答率	61.4%	82.8%	66.7%	43.1%	41.9%

回答は、5-そう思う（5ポイント）、4-どちらかといえばそう思う（4ポイント）、3-どちらともいえない（3ポイント）、2-あまりそうは思わない（2ポイント）、1-そうは思わない（1ポイント）から選択。ただし、設問2, 9, 10については、0-該当しない(0ポイント)を設けている。また、各設問において回答がない場合は、集計から除外している。



〔設問〕

1. 口調が明瞭で聞き取りやすかったですか
2. 板書やその他（プリント、OHP、ビデオ、液晶プロジェクター）による説明が適切で授業の理解に役立ちましたか（板書等を使用しなかった場合は0を記入してください）
3. ポイントをよく押さえ、うまく要約されていましたか
4. 授業は、「授業の内容（シラバス）に沿って進められましたか
5. 授業は、説明が十分で理解しやすかったですか
6. 授業に対する関心を高める努力がなされていましたか
7. 私語や態度の悪い学生に対し注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されていましたか
8. 授業は、時間通り始まり時間通り終わりましたか
9. 指定されたテキストや教材は適切に使用されていましたか（指定されていない場合は0を記入してください）
10. 休講があった場合、その補いは十分にされていましたか（休講がなかった場合は0を記入して下さい）
11. 授業内容のレベルはあなたにとって適切でしたか。次の基準で回答してください
(5-非常に難しい、4-難しい、3-適切、2-簡単、1-簡単すぎる)
12. この授業を総合的に評価してください。次の評価基準で回答してください
(5-非常に良い、4-良い、3-普通、2-あまり良くない、1-良くない)
13. あなたは、この授業によく出席しましたか
14. あなたは、私語などせず授業に集中しましたか
15. この授業を受けてその分野に対する関心が高まりましたか
16. この授業は、あなたにとって有意義なものでしたか
17. あなた自身、授業を理解するよう努力（予習・復習等）していましたか

全学年

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらか はいい	3 どちらとも いえぬ	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.89	33.6%	36.1%	19.2%	7.5%	3.4%	-	0.2%
2	3.77	25.8%	35.8%	23.7%	7.8%	2.9%	3.8%	0.3%
3	3.72	24.7%	36.4%	27.6%	8.2%	2.8%	-	0.3%
4	3.94	29.7%	37.5%	29.6%	1.6%	0.9%	-	0.6%
5	3.65	23.1%	36.1%	26.9%	10.2%	3.4%	-	0.3%
6	3.71	25.1%	34.1%	29.6%	8.0%	2.9%	-	0.3%
7	3.78	26.0%	35.2%	30.7%	5.3%	2.3%	-	0.3%
8	4.11	41.2%	35.5%	17.3%	3.7%	1.8%	-	0.4%
9	4.09	37.0%	29.8%	17.2%	3.8%	1.4%	10.3%	0.4%
10	3.81	6.7%	4.3%	5.3%	0.9%	1.0%	80.9%	0.9%
11	3.58	11.8%	37.7%	47.1%	2.0%	0.9%	-	0.5%
12	3.59	17.1%	37.5%	34.7%	7.9%	2.5%	-	0.4%
13	4.70	77.9%	15.3%	5.3%	0.6%	0.5%	-	0.3%
14	4.21	44.3%	36.5%	15.7%	2.3%	0.9%	-	0.4%
15	3.73	25.0%	36.0%	28.6%	7.0%	3.1%	-	0.4%
16	3.74	24.6%	37.4%	28.1%	6.5%	3.1%	-	0.4%
17	3.20	12.5%	24.7%	40.8%	13.3%	8.2%	-	0.5%

1年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらか はいい	3 どちらとも いえぬ	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.65	27.4%	32.1%	23.8%	11.3%	5.4%	-	0.1%
2	3.64	21.6%	31.8%	26.9%	9.1%	3.2%	7.1%	0.2%
3	3.56	20.4%	32.9%	32.8%	10.0%	3.7%	-	0.2%
4	3.82	25.6%	35.1%	35.6%	1.9%	1.5%	-	0.4%
5	3.48	19.0%	32.8%	30.3%	13.1%	4.7%	-	0.1%
6	3.55	21.4%	30.6%	33.7%	10.1%	4.0%	-	0.1%
7	3.68	24.3%	33.4%	31.9%	6.5%	3.8%	-	0.1%
8	3.92	34.2%	35.1%	21.6%	5.6%	3.3%	-	0.2%
9	3.97	30.0%	29.3%	19.4%	3.7%	2.0%	15.5%	0.2%
10	3.57	6.7%	3.9%	6.6%	1.2%	2.2%	79.0%	0.5%
11	3.45	9.6%	32.3%	52.6%	3.5%	1.6%	-	0.3%
12	3.50	15.2%	34.4%	38.7%	8.6%	2.9%	-	0.2%
13	4.72	81.4%	11.5%	5.4%	0.6%	1.0%	-	0.1%
14	4.12	40.6%	36.3%	18.6%	3.0%	1.4%	-	0.1%
15	3.65	22.1%	34.6%	32.2%	7.3%	3.6%	-	0.1%
16	3.68	22.7%	36.6%	30.0%	7.0%	3.4%	-	0.2%
17	3.26	14.3%	26.0%	39.5%	11.4%	8.6%	-	0.2%

2年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらか はいい	3 どちらとも いえぬ	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.96	35.0%	37.1%	18.7%	5.9%	3.0%	-	0.4%
2	3.75	25.9%	35.6%	24.6%	7.6%	3.5%	2.2%	0.5%
3	3.73	24.7%	36.5%	27.9%	7.5%	2.9%	-	0.5%
4	3.93	29.0%	37.4%	30.4%	1.7%	0.7%	-	0.8%
5	3.66	23.3%	35.8%	27.1%	9.9%	3.5%	-	0.4%
6	3.68	24.5%	33.1%	30.4%	8.5%	3.0%	-	0.5%
7	3.81	25.5%	36.5%	32.1%	4.1%	1.2%	-	0.6%
8	4.24	45.8%	35.6%	14.8%	2.6%	0.6%	-	0.6%
9	4.25	47.1%	28.3%	14.8%	2.9%	0.9%	5.4%	0.6%
10	3.85	2.4%	2.0%	2.8%	0.2%	0.1%	91.7%	0.8%
11	3.63	12.5%	40.0%	44.7%	1.5%	0.6%	-	0.6%
12	3.58	18.1%	36.4%	33.2%	8.8%	3.0%	-	0.6%
13	4.65	73.0%	19.3%	6.2%	0.8%	0.2%	-	0.5%
14	4.19	43.0%	36.5%	17.0%	2.3%	0.7%	-	0.5%
15	3.64	22.3%	35.0%	29.5%	9.2%	3.5%	-	0.5%
16	3.65	22.2%	36.2%	29.3%	7.8%	4.0%	-	0.5%
17	3.10	10.2%	22.9%	42.2%	15.0%	9.0%	-	0.6%

3年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらか はいい	3 どちらとも いえぬ	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	4.10	37.2%	41.8%	14.8%	4.7%	1.2%	-	0.3%
2	3.93	29.8%	42.7%	19.5%	5.9%	1.6%	0.1%	0.3%
3	3.93	29.7%	41.8%	20.7%	6.2%	1.2%	-	0.4%
4	4.11	35.9%	40.3%	21.5%	1.2%	0.3%	-	0.8%
5	3.86	26.5%	42.0%	23.0%	6.7%	1.4%	-	0.4%
6	3.93	30.0%	40.7%	22.6%	5.1%	1.3%	-	0.3%
7	3.85	29.0%	35.8%	27.7%	5.6%	1.6%	-	0.4%
8	4.26	46.0%	36.5%	14.3%	1.9%	0.9%	-	0.5%
9	4.20	39.4%	32.7%	14.0%	2.9%	0.7%	9.5%	0.8%
10	4.00	9.2%	6.3%	5.1%	1.3%	0.5%	76.0%	1.5%
11	3.76	15.3%	45.6%	37.8%	0.4%	0.2%	-	0.6%
12	3.68	17.1%	42.6%	32.0%	6.5%	1.3%	-	0.5%
13	4.72	78.2%	16.0%	4.4%	0.5%	0.2%	-	0.7%
14	4.36	50.1%	36.8%	10.8%	1.1%	0.5%	-	0.7%
15	3.93	31.0%	38.6%	23.0%	4.4%	2.1%	-	0.8%
16	3.91	29.1%	39.1%	25.3%	4.4%	1.4%	-	0.8%
17	3.25	12.1%	26.1%	41.3%	13.9%	5.8%	-	0.8%

4年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらか はいい	3 どちらとも いえぬ	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	4.37	51.5%	36.8%	8.8%	2.4%	0.4%	-	0.1%
2	4.04	36.6%	37.6%	14.8%	6.2%	2.0%	2.5%	0.3%
3	3.97	34.0%	38.9%	18.2%	6.9%	1.8%	-	0.3%
4	4.15	36.5%	43.1%	18.0%	1.1%	0.6%	-	0.7%
5	3.98	34.4%	38.0%	19.3%	6.2%	1.7%	-	0.4%
6	3.96	32.9%	37.3%	24.2%	3.8%	1.7%	-	0.1%
7	3.91	28.8%	38.7%	28.0%	3.1%	1.1%	-	0.3%
8	4.23	47.4%	34.1%	13.4%	3.5%	1.3%	-	0.3%
9	3.73	27.8%	30.3%	24.8%	10.9%	2.4%	3.5%	0.3%
10	4.14	16.4%	9.4%	8.7%	1.0%	0.3%	62.8%	1.5%
11	3.54	10.3%	34.8%	53.1%	1.1%	0.1%	-	0.4%
12	3.83	23.4%	43.4%	26.4%	4.6%	1.7%	-	0.6%
13	4.74	78.2%	17.6%	3.4%	0.4%	0.1%	-	0.3%
14	4.39	52.0%	36.6%	8.8%	2.0%	0.3%	-	0.3%
15	4.00	33.1%	39.2%	22.0%	3.9%	1.3%	-	0.6%
16	3.96	31.3%	40.8%	21.5%	4.2%	1.8%	-	0.3%
17	3.11	12.4%	21.1%	41.1%	14.4%	10.5%	-	0.4%

大阪薬科大学の公開教育講座は「卒後教育講習会」として1983年に発足以来、本年で25年目にあたります。これは全国薬科大学の公開教育講座としては最も長い歴史を持つものの一つであり、参加者も極めて多数にのぼっています。1992年からは「薬剤師の生涯教育」に焦点を絞るとともに、全国に先駆けて（財）日本薬剤師研修センターとの共催を決定し、現在に至っております。

2005年度からは、「くすりの作用と副作用～薬物治療における安全管理のために～」を基本テーマに、医薬品の適正使用をめぐる様々な問題点を取り上げ、その解決策について討論してまいりました。本年度は、「呼吸器疾患」「脳血管系疾患」「自己免疫疾患」をテーマとしてとりあげ、それらの発症要因から治療薬の作用と副作用まで、基礎と臨床の両面から討論し、以下のとおりの日程で年3回開催いたしました。

本年度の開催を終え、延べ参加者数が963名（大阪薬科大学卒業生44.8%、他大学卒業生55.2%）となり、参加者の皆様のアンケート結果によりますと概ね好評を得ております。これもひとえに多くの皆様方のご支援の賜であると心より感謝しております。ご協力いただいた方々には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。最後に本講座の開催にあたり、ご共催いただきました（財）日本薬剤師研修センター、（社）日本薬学会近畿支部、並びにご後援いただきました（社）大阪府薬剤師会、大阪薬科大学同窓会に厚く御礼申し上げます。

◎第45回5月19日（土）

- ①『アスベスト吸入による健康障害～肺胸膜の疾患～』
国立病院機構 近畿中央胸部疾患センター院長
坂谷 光則 先生
- ②『肺癌の化学療法と薬剤』
高槻赤十字病院副院長／呼吸器外科部長
千葉 渉 先生

◎第46回7月14日（土）

- ①『パーキンソン病治療薬研究の現状と今後』
大阪薬科大学薬品作用解析学研究室准教授
大野 行弘 先生
- ②『パーキンソン病の治療と注意すべき副作用』
愛媛大学大学院病態治療内科教授／
愛媛大学医学部附属病院創薬・育薬センター長 兼
創薬治療内科・神経内科科長 野元 正弘 先生

◎第47回12月1日（土）

- ①『関節リウマチ治療の現状と将来-内科の立場から-』
大阪医科大学第一内科講師／膠原病内科医長
武内 徹 先生
- ②『関節リウマチ治療の現状と将来-外科の立場から-』
大阪医科大学外科学講座整形外科准教授
中島 幹雄 先生

開催場所：梅田スカイビルタワーウエスト36階
会議室L・R（各回共通）

第45回
坂谷先生



第46回
大野先生



第47回
武内先生



第45回
千葉先生



第46回
野元先生



第47回
中島先生



おもに市民の方を対象として実施している恒例の市民講座を、本年度も「健康とくすり」をメインテーマとして、第23回「がんの予防と治療について」〔5月26日(土)〕・第24回「アロマテラピーについて」〔10月20日(土)〕の2回にわたって開催いたしました。これらの講演内容については、これまでの参加者の皆様のアンケート結果を参考にして決定し、出来るだけ多くの皆様のご希望に沿った内容となるように企画いたしました。同時に、「くすりの相談室」「薬用植物園の見学」も併せて開催し、「くすりの相談室」では第一線で活躍中の薬剤師の先生方に、くすりに関するさまざまな相談に応じていただきました。本年度は春・秋の2回開催となりましたが、あわせて745名もの参加者をお迎えし、活発な質疑応答を含め、成功裏に終えることができました。これもひとえに多くの皆様方のご支援の賜物であると心より感謝しております。ご協力いただいた方々には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。最後になりましたが、本講座の開講にあたり、ご共催いただきました高槻市、社団法人 日本薬学会近畿支部、社団法人 大阪府薬剤師会、社団法人 大阪府病院薬剤師会及び大阪薬科大学同窓会、並びにご後援いただきました大阪府、高槻市教育委員会、高槻市薬剤師会に厚く御礼申し上げます。

第23回大阪薬科大学市民講座

日 時：平成19年5月26日(土)13:00~16:10

会 場：大阪薬科大学 講堂(講義・実習棟1階)

演題/講師：

「生活習慣関連病としてのがんの予防と早期発見」

芦屋市立芦屋病院病院長 姫野 誠一 先生

「がん医療における緩和ケアの役割」

高槻赤十字病院緩和ケア科部長 岡田 圭司 先生

第24回大阪薬科大学市民講座

日 時：平成19年10月20日(土)13:00~16:10

会 場：大阪薬科大学 講堂(講義・実習棟1階)

演題/講師：

「アロマテラピーと癒し^{いひ}」

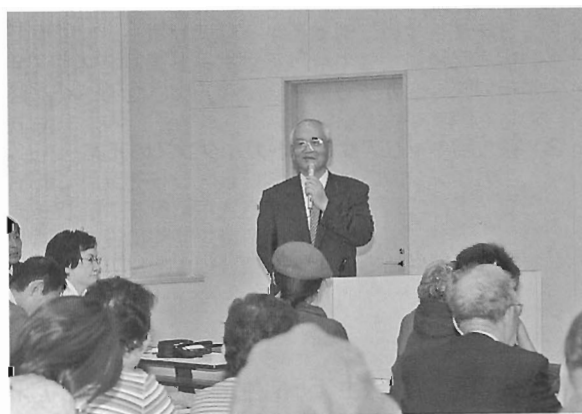
塩野香料株式会社特別顧問 中島 基貴 先生

「アロマテラピーの実際」

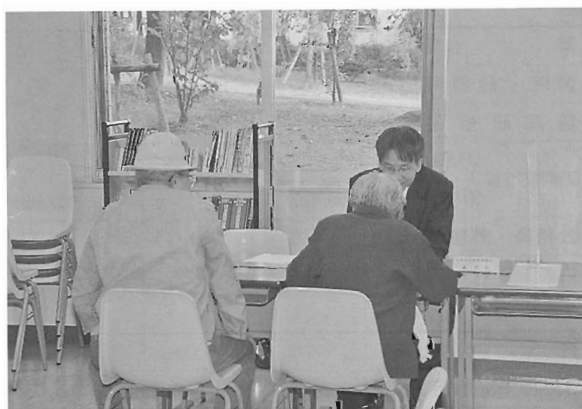
山本淑子アロマセラピストスクール校長 山本 淑子 先生



第24回市民講座 講演風景



第24回市民講座 講演風景



くすりの相談室



第24回市民講座 講演風景

本年度の本学学生の進路・就職状況は、昨年同様、堅調に推移しています。薬学生の進路・就職状況は一般学部生同様、景気の動向に左右される面は多々ありますが、行政の影響等を強く受けるのも特徴です。昨年より、一般大学生の就職はバブルの再来とも言われ活況を呈しています。薬学生の場合は、さらに薬学教育6年制への移行に伴い、薬学部卒空白の2年間(平成22年、23年)を埋める薬剤師求人増加が保険薬局、ドラッグストア業界等で顕著に表われています。

平成19年10月末現在の学部4年次生(55期生)の進路・就職状況は表1に示す通りで、内定率は71.0%(昨年度70.5%)となっています。現時点での進路未定者の多くは、病院薬剤師を第一志望としている学生です。例年、学生の志望度大の病院ほど求人が遅く、進路決定が他職種より遅くなっています。仮内定をいただいている保険薬局、ドラッグストア組の最終進路決定も、希望する病院等からの求人待ちなど様子見があるのも例年通りです。本年度の進路・就職の特徴として、大学院進学者の増加36.2%(昨年度28.9%)が挙げられます。これは昨年4月よりスタートした薬学教育6年制が大きく影響しています。また、公務員内定者も昨年同様に増加し、岐阜県、宮崎県、尼崎市等への合格者が出ています。さらに選考実施予定の大阪府、大阪市や現在採用進行中の自治体および独立行政法人国立病院機構の各医療センター等の発表待ちもあり、さらなる増加が見込まれます。薬業関連企業ではMR(医薬情報担当者)が13.1%(昨年度7.7%)と増加しています。これはインターンシップ等で職種の理解が進んだ結果と考えています。

これらの状況を踏まえて、本学キャリアサポート部委員会・キャリアサポート課では、個々の学生の価値観・ニーズに応じた進路・就職支援を強化、拡大中です。

1) 個人面談の充実

3年次生全員に対するキャリアサポート部委員との個人面談、かつキャリアサポート課員と学生(全学年対象)に対する個別面談を充実させるべく、努力しています。

2) 領域別キャリアサポートガイダンスの充実

当ガイダンスでは、本学OB・OGを講師にお招きし、学生の職種選択・進路決定に役立つ講演を実施し、アップツーデイトに良質ですぐに役立つ情報を学生に提供しています。領域別キャリアサポート

ガイダンスは、製薬企業、CRO(医薬品開発業務受託機関)、公務員、病院、保険調剤薬局・ドラッグストアのご協力のもと実施しています。

3) インターンシップの拡大

4年次生(55期生)には、平成18年8月に大手製薬企業21社において、学内選考を経た40名でインターンシップを実施しました。MR活動や医薬品卸の管理薬剤師業務を中心とした就職体験で、参加学生にとって薬業関連企業を知る貴重な体験となったものと思われます。平成19年度3年次生(56期生)には、さらに規模を拡大して、24社49名で8月に実施しました。職種も製薬企業のMR職、臨床開発職、医薬品卸の管理薬剤師、CRO職と拡大して実施しております。

就職活動時期が、本年度学生に対しては昨年以上に早期化しています。まず、薬業関連企業(MR)を中心として3年次生を対象に3月初旬から本格的に始まっています。MR職は5月頃までに、また、内勤職もおおよそ夏休みまでにはほぼ終了しています。保険調剤薬局・ドラッグストアなどは、昨年よりも早期化傾向にあり3月中旬にはスタートしていますが、実際は通年採用の形態を取っているケースが多いのが現状です。保険調剤薬局・ドラッグストアにおける薬剤師に対する需要は、医薬分業の進展は勿論、薬学部卒空白の2年問題もありさらに大きくなっています。本年度も全国展開している大規模店の関西進出が激しく、本学への求人・採用にもその影響が出ています。この職種については、需要供給の関係でここ2~3年は通年採用が続くと考えていますが、それ以降は薬学部の増加等の影響もあり、予断を許さない状況下にあります。病院研修生の募集は大学院進学とほぼ同じく7月頃から始まり、8月に試験が実施されています。病院薬剤師の募集も7月頃から始まり、その後、年末に向かって採用内定が出てくることになっています。

キャリアサポート部委員会・キャリアサポート課では、従来通り一人ひとりの適性や能力に応じてきめ細かな指導ができるように努力しております。関係各位におかれましても、本学学生の就職につきましても、ご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、平成19年度の大学院博士前期課程2年次生(32期生)の進路・就職内定状況は表2の通りです。

(表1)

平成19年度 4年次生(55期生)進路・就職内定状況

(平成19年10月31日現在)

区 分	男	%	女	%	計	%	
薬 局	13(17)	12.5	31(39)	16.7	44(56)	152(18.8)	
病院・診療所	(1)		10(14)	5.4	10(15)	34(5.0)	
病院研修生	(1)		2(9)	1.1	2(9)	0.7(3.0)	
薬業関連企業	(MR)	17(7)	16.3	21(16)	11.3	38(23)	13.1(7.7)
	(内勤)	1(1)	1.0	3(11)	1.6	4(12)	1.4(4.0)
公務員・教職員	(3)		3(6)	1.6	3(9)	1.0(3.0)	
大学院進学 (博士前期課程)	50(38)	48.1	55(48)	29.6	105(86)	36.2(28.9)	
そ の 他							
内 定	81(68)	77.9	125(142)	67.2	206(210)	71.0(70.5)	
未 定	23(28)	22.1	61(60)	32.8	84(68)	29.0(29.5)	
合 計	104(96)	100.0	186(202)	100.0	290(298)	100(100.0)	

※ () 内は、昨年10月31日現在を示す。

(表2)

平成19年度 大学院博士前期課程(32期生)進路・就職内定状況

(平成19年10月31日現在)

区 分	男	%	女	%	計	%	
薬 局			1(0)	3.0	1(0)	1.6(-)	
病院・診療所	(1)		1(3)	3.0	1(4)	1.6(7.3)	
病院研修生			1(2)	3.0	1(2)	1.6(3.6)	
薬業関連企業	(MR)	(1)	-	2(1)	6.1	2(2)	3.3(3.6)
	(内勤)	17(16)	60.7	19(15)	57.6	36(31)	59.0(56.4)
公務員・教職員	1(1)	3.6	2(0)	6.1	3(1)	4.9(1.8)	
大学院進学 (博士後期課程)							
そ の 他							
内 定	18(19)	64.3	26(21)	78.8	44(40)	72.1(72.7)	
未 定	10(7)	35.7	7(6)	21.2	17(15)	27.9(27.3)	
合 計	28(26)	100.0	33(29)	100.0	61(55)	100.0(100.0)	

※ () 内は、昨年10月31日現在を示す。

前日の小雨が幸いしたのでしょうか？ 第42回大薬祭は好天に恵まれ、「Apple～甘酸っぱさ全開～」をテーマに11月2日(金)～4日(日)の3日間、次のような日程で開催されました。

11月2日(金)

バレーボール大会、天下一部道会、一生で一度かも!? あの大迫カスクリンDEゲーム大会、ベストカップルコンテスト、展示発表会、Daiyaku Collection

11月3日(土)

アカペラライブ、わ!投げビンゴ、科学実験教室、薬用植物見学会、お茶会、ライブ喫茶、トレジャーハント、DANCE BATTLE in DAIYAKU、展示発表会、フリーマーケット、吉本お笑いライブ
ミニオープンキャンパス

11月4日(日)

園児の発表会、クイズ赤りんご・青りんご、軽音楽部・フォークソング部によるライブ、体力測定会、トレジャーハント、薬用植物見学会、コーラス発表会、展示発表会、フリーマーケット、薔薇祭

以下、特に印象に残ったものを中心にこの3日間を振り返ってみます。

本年度の大薬祭は、何事にも用意周到で、準備の段階、当日の運用、また後片付けでも非常に計画的で順調でした。スタッフ全員が、テーマの“りんご”の図柄を散りばめた真っ赤なパーカーをはおり、右に左に機敏に動いていたのが大変印象的でした。

例年のように、薬品物理化学研究室が優勝したバレーボール大会で幕を開け、Daiyaku Collectionで1日目を終了しましたが、昨年初めて男性も出場したDaiyaku Collectionも今年は元に戻り男性の出場が禁止となり、



Daiyaku Collection

なんとなく残念で、寂しく感じられました。ダイコレでの優勝はソフトテニス部でした。

2日目の今年の目玉はやはり、“吉本お笑いライブ”だったでしょうか。テレビでお馴染みの“チュートリアル”、“博多 華丸・大吉”、“NON STYLE”の来演で、また無料ということもあり、学内600枚の整理券もすぐになくなり、当日配布された学外400枚の整理券を求めて朝の4時から来られた学外の人もおられたようです。入場できなかったたくさんの方が、ライブが終わるまで外で待っておられたのが印象的でした。予定を少しオーバーしましたが混乱もなく無事終了し、大変良かったといわれる人が多かったリサイタルでした。また、リサイタル以外でも例年行なわれている“科学実験教室”、“薬用植物園見学会”、“お茶会”、“フリーマーケット”、“トレジャーハント”などいずれも大変人気があり、多くの方がそれぞれの形で大薬祭を楽しんでおられました。

3日目で印象的なのは、“園児の発表会”と“薔薇祭”だったでしょうか。園児が一生懸命演じている姿が愛らしくもあり、微笑ましくもありました。そして、大薬祭で最後を華やかに飾ったのは、例年と同様“薔薇祭”でした。いつも女性軍に押され気味の男性陣が、このとき



バレーボール大会



フリーマーケット

とばかり元気一杯、一糸乱れず演じる姿が印象的でしたし、何となく安心しました。本年度は陸上部の四連覇を阻んで、柔・剣道部が優勝の栄冠を勝ち取りました。果たして陸上部の来年の巻き返しはあるのでしょうか？今から楽しみです。

そして今回の大葉祭の象徴と思える見事な後片付けをもって、例年を上回る参加者があった第42回大葉祭は無事終了しました。

本年度のスタッフの皆さんがその日、その日を陰日ではなく努力してくれた贈り物なんでしょうか。この3日間は天候に恵まれ、病人やけが人もなく、また事故や揉め事もなく、大変盛り上がり爽やかな第42回大葉祭でした。来年度は新学舎建設工事により、運動場、中庭付近が使えなくなる状況ですが、この機会を良い転機と捉えて、大葉祭の規模を縮小することなく、内容を一部変更・一新などの創意工夫し、新しい大葉祭を是非創り

上げて頂きたいと思います。

最後になりましたが、早くから準備にとりかかり、陰で地道に支えて盛り上げて下さった田中 智実行委員長、和田明日香副実行委員長、瀬古祐輔執行委員長はじめ実行委員のスタッフの皆さんに心より厚く感謝いたします。また、イベントの参加や模擬店で活躍してくれたクラブ・サークル・同好会などの学生諸君、審査員・イベントへの協力や当日参加して頂きました教職員の皆様、近隣の人達、フリーマーケットに出店して下さった方々、ご寄付をいただいた育友会、同窓会、大学当局、会社・店舗、更に当日の警備員の方々、高槻市営バス、高槻警察署及び多くの関係諸氏・団体に、この紙面をお借りしまして厚く感謝申し上げる次第です。本当に皆様ありがとうございました。そしてお疲れ様でした。来年はもっともっと参加人数を増やし、素晴らしい大葉祭になりますよう、心から願っております。



模擬店



薔薇祭

大阪府知事より感謝状

本学の長年にわたる献血活動に対しまして、本年7月30日、KKRホテル大阪で行なわれた「献血推進協力団体等に対する厚生労働大臣表彰式・感謝状伝達式贈呈式 大阪府知事感謝状贈呈式」において大阪府知事感謝状が贈呈されました。このような感謝状が本学に贈られましたことは、医療系大学として大変名誉なことであり、今後とも献血に対してこれまで以上に関心を持たれ、積極的に献血していただきたいと思っておりますので御協力の程、宜しくお願いいたします。



昨年に引き続き、本学の特待奨学生制度に基づき、特待奨学生の第三回表彰式（5月30日（水）：学部2～4年次生及び大学院1年次生の成績優秀者、11月2日（金）：大学院2年次生及び博士後期課程学生の研究成果優秀者）が行われました。本年度も上記制度の選考基準に則り、学部2～4年次生は平成18年度の成績から、大学院1年次生は大学院入試の成績から、それぞれの最優秀者、次席者、三席者が選考されました。また、大学院2年次生及び博士後期課程の学生については、10月19日（金）に実施されたプレゼンテーションの内容から大学院委員会において3名の研究成果優秀者が推薦されました。この制度は、薬剤師及び薬学研究者等を目指す本学の学生にとって大きな励みになっていること、また、繰り返し特待奨学生にな

ることも可能ですので、次年度も勉学、研究及び課外活動などに頑張って下さい。

平成19年度大阪薬科大学 特待奨学生（第3回） 表彰者一覧

現2年次生
松田 隆志 藤原 彩 小川 智子
現3年次生
生野 可織 速水 美香 山中 里紗
現4年次生
井上 真希 前田 麻里 竹田 宏樹
現大学院修士課程1年次生
後北 桃子 梶間 紀光 國崎 麻里
現大学院修士課程2年次生～博士後期課程
M2 米山 弘樹 M2 田和 正志 D3 高山 淳二



特待奨学生表彰式



大学院学生による研究成果発表会



成績優秀者 特待奨学生



研究成果優秀者 特待奨学生

学生相談室だより

学生相談室相談員 二宮 ひとみ

円滑によりよい日常生活を送るために、他人との信頼関係を形成することは大切です。信頼関係は一朝一夕に形成されるものではなく、時間をかけて完成する印象があります。しかし実際には、第一印象で相手を信頼できるかできないかを判断し、比較的早い段階で信頼関係を形成していることがあります。

相手の印象はどのようにして形成されるのでしょうか。「優しそう」「落ち稽きがない」「知的だ」といった相手の情報を得た場合、最初に得られる情報によって相手の印象の全体的な枠組みが出来上がります。それ以降に得られた情報は、最初の情報となじまない質のものであれば、なじむように主観的に解釈されていきます。このように最初の情報は、後で別の情報が多く加えられても変化することがなく、印象の中心部を形成することになります。

先日、テレビのバラエティ番組で第一印象が大切かどうかを問う場面があり、20歳前後の観客の過半数が「第一印象は大切ではない」と解答していました。対人

関係では第一印象にこだわらず、時間をかけて相互に本心を理解し、内面の良さを知ることが大切であると考えますが、やはり第一印象は簡単には拭えないものです。

第一印象は、初対面の最初の15～30秒で決まるとも言われます。初めての場面では、最初の挨拶に気を配るだけで、相手が持つ自分の印象が格段に良くなります。良い印象を持ってもらえると、信頼関係の形成への近道となるかと思えます。

学生相談室では、対人関係を円滑に維持するコツなどを一緒に考えていきます。自分らしさを大切にしたい学生生活を過ごすように、私ども相談員は陰ながら応援しております。

開室時間：毎週火・木曜日 12:00～16:00

場 所：本部・図書館棟1階

tel：(072) 690-1077 (直通)

mail：counsel@gly.oups.ac.jp

米国ノースカロライナ大学チャペルヒル校 (The University of North Carolina at Chapel Hill: UNC) Kuo-Hsiung Lee教授 (Natural Products Laboratory, Division of Medicinal Chemistry and Natural Products, School of Pharmacy) のご指導のもと、1年4ヶ月間の研究留学(平成18年4月23日~平成19年8月20日)を終え帰国しましたので、ご報告致します。

最初に、今回、ノーベル医学生理学賞を受賞されましたノースカロライナ大学チャペルヒル校Oliver Smithies教授に、心よりお祝い申し上げます。

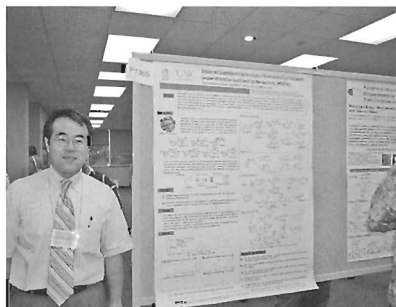
私が留学しましたUNCや研究室の紹介、ノースカロライナ州、Chapel Hillの町、リサーチトライアングル等は、本学の谷口先生および宇佐美先生が学報53号、55号にて詳細にご報告されていますので、この報告では、アメリカ東海岸の植物を紹介しながら、留学生生活を振り返りたいと思います。

関西国際空港から飛び立った私達家族は、テキサス州ダラス・フォートワース空港で入国審査を済ませ、2006年4月20日にノースカロライナ州ローリー・ダーラム空港に到着しました。この日は春の嵐でなかなか着陸できず、燃料補給のために近隣の空港に一旦着陸。天候回復を待ち、再度、離陸し、やっとの事で到着。私達家族を出迎えて頂きました宇佐美先生を空港で4時間以上も待たせてしまうことになりました。アパートメントのゲストハウスに到着したのは翌日の午前1時をまわっていましたので、そのまま就寝しました。翌日、小鳥のさえずりで目覚め(カージナルという名前の赤い鳥が沢山います)、ゲストハウスのまわりを散歩すると、その自然(緑)の多さにワクワクしたのを覚えています。

私には、この留学中に、出来る限り多くの場所を訪れ、沢山の



研究棟の前で
(Beard Hall UNC)



アメリカ生薬学会での発表
(Portland, ME)



カロライナジャスミン
(*Gelsemium sempervirens*)

の植物を観察するという目的もありました。

まず、研究についてですが、①LC/MS-IT-TOFによる植物成分の分析。②抗HIV活性を指標としたグリチルレチン酸誘導体の合成。の2本柱で取り組みました。このLC/MS-IT-TOFは、イオントラップ型MSとTOF型MSのハイブリッドタイプで、MSⁿの高分解能MSマススペクトルが得られる優れたものです。この装置の立ち上げから安定稼働までを担当しながら、NCI (National Cancer Institute) より提供された抗ガン作用を有する植物エキスについて、その活性成分の推定とそれらの効率的単離法を開発し、多くの成果をあげる事ができました。さらに、マリアアザミ抽出エキス中のフラボノリグナンの分析方法を開発しました。この方法は現在、アメリカの4大学が参加しているプロジェクト(マリアアザミ抽出エキスによる肝炎治療)において、フェーズI試験で使用されており、今後も共同で研究を行う予定です。私は、Lee教授よりLC/MSが使い、さらに天然物化学の知識があるということで、採用して頂きました。その結果、Lee教授が研究室訪問者に対して私を紹介される時には、必ず「彼は、LC/MSのスペシャリストだ。」と言われます。この言葉は、最後まで私に大変なプレッシャーを与え続けました。また、約30種のグリチルレチン酸誘導体を合成し、それらの抗HIV および抗ガン作用を評価することができました。これらの研究の内、マリアアザミ抽出エキス中のフラボノリグナンの分析方法の成果についてはメイン州(アメリカ合衆国東海岸の最北端の州)のポートランドで開催されました第48回アメリカ生薬学会(The American Society of Pharmacognosy)で発表し、論文にまとめ上げることができました(*Journal of Natural Products*, 70 (9), 1424-1428, 2007)。ポートランドは、私が暮らしていたチャペルヒルより片道約1200マイル(約1900キロメートル)のところであり、家族を連れての車の旅(8泊9日)も忘れられない思い出の一つになりました。

次に、大学キャンパスやアパートのまわりなどの季節の花を紹介したいと思います。まず、4月には、淡いピンク色の桜やリンゴ（クラブトゥリー）、白色の梨、黄色のカロライナジャスミン（*Gelsemium sempervirens*）の花が見事に咲きます。カロライナジャスミンはジャスミンと名前が付いていますが、ジャスミンとは関係なく、マチン科の植物でその根をゲルセミウム根と言い猛毒を有しています。5月にはフジ（この植物はアジアと北アメリカ東部原産とされる）が鮮やかな紫色で咲き誇ります。その他、ツツジやマウンテンローレルなどなど。夏の夕方は、頻りにサンダーstormがあり、植物の生長が最も盛んになり、すばらしい緑の森が私達の心身を休めてくれます。秋には、サトウカエデなどが真っ赤に紅葉し、町のハロウィーンのカボチャとのコントラストが絶妙です。冬には、あちこちに植栽されているセイヨウヒイラギの赤い実が、私達のクリスマス気分を守り立てます。大阪薬科大学のキャンパス内でも同様に四季を感じることができます。さらに、工夫して緑あふれる美しいキャンパスにしたいものです。

ここで、少し余談なのですが、北アメリカ東海岸はユーラシア大陸東部と隔絶しているにもかかわらず、その植生は、東アジアと大変良く類似しています。森や山を歩いてみると、日本の山を歩いているかのような勘違いをするほどです。少し例を挙げてみますと、和名でアメリカ〇〇〇と言われている植物は、北アメリカ東部原産のものが多いのです。キササゲに対してアメリカキササゲ、ヤマボウシに対してアメリカヤマボウシ（アメリカハナミズキ）、ハナノキに対してアメリカハナノキ、先にお話したフジなどなど。どれも、日本でみかけるものとよく似ていますが、中には背丈や葉の大きさが2~3倍ぐらいあるでしょうか？非常に大型のものもあります。薬用ニンジンも同じで、アジアにはオタネニンジン *Panax ginseng* がありますが（日本には自生していない）、これとそっくりのニンジンが東海岸のアパラチア

山脈に沿ってだけ自生しています。アメリカニンジン *Panax quinquefolius* です。このような植生を隔離分布と言い、色々な説が言われています。その昔、東アジアと北アメリカ東海岸がくっついていた？というかなり大胆な説もあります。アメリカンインディアン（ネイティブアメリカン）が黄色人種などを考えあわせると、植物を観察する時も興味が尽きません。

アメリカには世界的に有名な植物園がたくさんあります。私は家族と共に、少ない休暇を利用し、これらの植物園見学にも出掛けました。ニューヨーク植物園、ハーバード大学博物館（植物ガラス標本館）、フェアチャイルド熱帯植物園、マングローブ林をみることができるエバングレーズ国立公園。さらに、ミズーリ植物園へも行ったのですが、時間的な余裕がなく、これは次回のお楽しみとしました。その他、近辺の州立植物園や樹木園へも出掛けました。また、アメリカでは、サイエンスに対する子供達の興味にきっちりと答えることができる数多くの施設が整っています。子供達だけでなく大人も熱心に学んでいる姿が印象に残りました。この点について、日本は完敗です。

一方、ノースカロライナ大学チャペルヒル校には、日本薬剤師研修制度を利用し、留学されている病院薬剤師の先生方もおられ、交流を深めることができました。さらに、アメリカにおける薬用ニンジンの栽培について調査するとともに、その栽培地を訪れることもできました。

今回の研究留学をとおして得た経験および沢山の研究者との出会いは、今後の教育・研究のための貴重な財産となりました。

最後になりましたが、今回このような貴重な機会を与えて下さいました矢内原理事長、栗原学長、馬場教授を始め、本学の先生方に厚く御礼申し上げます。さらに、留学中に色々とサポート下さいました本学事務職員の方々に御礼申し上げます。



秋の紅葉（Chapel Hill, NC）



ニンジン栽培農家を訪問：
Larry Harding氏（農場主人）と畑の前で

各課だより

総務課

■人 事

<大学関係>

名誉教授（平成19年4月1日付）

玄番 宗一

木村捷二郎

客員研究員（平成19年7月1日付）

林 哲也

森 龍彦

（平成19年11月1日付）

河野 龍而

非常勤講師（平成19年9月14日付）

伊藤 信也（人間と文化4e）

森山 健三（東洋医学概論）

中川 俊正（病原微生物学）

樋口 久（英語2）

樹矢 桂一（ドイツ語3、人間と文化2）

中村 恵（ドイツ語3）

Joseph Michael Jacobs（英語4）

Judith Lynn Ritter（英語4）

<法人関係>

監事就任（平成19年7月31日付）

露口 佳彦

吉田 訓康

■慶 弔

<受章>

川島 康生 理事（元理事長）（平成19年11月3日付）

<文化功労者>

■学位記授与式

平成19年9月25日(火)午前10時30分より大会議室において、平成19年9月学位記授与式（40名:薬学科12名、製薬学科28名）が挙行されました。



学位記授与式

■海外出張

西 義則 客員助教（創薬基盤科学研究室）

<出張期間：平成19年5月30日～6月7日>

分析用超遠心解析ソフトUltraScan講習会に参加（アメリカ）

小林 祐次 客員教授（創薬基盤科学研究室）

<出張期間：平成19年6月25日～7月4日>

第20回アメリカペプチドシンポジウム出席並びに発表及びトロント大学においてアディポネクチンに関する研究打ち合わせ（カナダ）

千熊 正彦 教授（生体分析化学研究室）

米田 誠治 客員研究員

<出張期間：平成19年7月15日～7月24日>

第13回国際生物無機化学会出席（オーストリア）

当麻 成人 講師（環境医療学グループ）

<出張期間：平成19年8月6日～8月19日>

2007年ユニバーシアード大会日本代表コーチとして参加（タイ）

石田 寿昌 教授（薬品物理化学研究室）

<出張期間：平成19年8月20日～8月24日>

第6回FPCBミニシンポジウム出席（中国）

井尻 好雄 准教授（臨床薬理学研究室）

加藤 隆児 助手（臨床薬理学研究室）

<出張期間：平成19年9月9日～9月16日>

第10回国際TDM&CT会議出席（フランス）

松村 靖夫 教授（病態分子薬理学研究室）

大喜多 守 講師（病態分子薬理学研究室）

<出張期間：平成19年9月16日～9月21日>

第10回国際エンドセリン会議研究発表（フランス）

恩田 光子 講師（臨床実践薬学研究室）

<出張期間：平成19年10月28日～11月4日>

薬剤使用状況等に関する調査研究（アメリカ）

■海外留学

芝野 真喜雄 講師（生薬科学研究室）

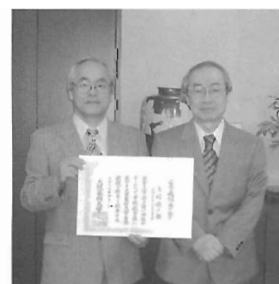
<留学期間延長>

平成18年4月23日～平成19年4月22日を平成18年4月23日～平成19年8月20日に変更

ノースカロライナ大学（アメリカ）

■名誉教授称号授与式

平成19年7月17日(火)午前10時30分より学長室において、玄番元教授に対する大阪薬科大学名誉教授称号授与式が挙行されました。また、同年7月19日(木)午前10時より学長室において、木村元教授に対する大阪薬科大学名誉教授称号授与式が挙行されました。



名誉教授称号授与式

■研究助成

- *平成19年度知的クラスター創成事業
天野 富美夫 (生体防御学研究室教授)
研究題目「微生物低付着性を有する新規材料ならびに感染症予防効果をもつ機能性食品の開発」
- *内藤記念科学奨励金
(平成19年10月1日)
大野 行弘 (薬品作用解析学研究室准教授)
研究題目「中枢セロトニン神経系による錐体外路系運動機能の調節機構」
- *柿内三郎記念研究助成金
(平成19年10月19日)
藤森 功 (生体防御学研究室講師)
研究題目「プロスタグランジン受容体を介した新規脂肪細胞分化制御機構の解明」
- *平成19年度ゲノムネットワークプロジェクト
藤森 功 (生体防御学研究室講師)
研究題目「脂質メディエーターに関する遺伝子発現制御ネットワークの解明」
- * (財)住友財団研究助成
藤森 功 (生体防御学研究室講師)
研究題目「脂肪細胞の分化制御に関わる遺伝子群の統合的発現調節機構の解明」

- * (財)医科学応用研究財団研究助成
藤森 功 (生体防御学研究室講師)
研究題目「プロスタグランジン受容体を介した脂肪細胞分化シグナル伝達経路の解明」

■寄付

- ・ 本学教育研究活動への寄付金 (100万円)
(Bio Felmin 製薬株式会社より、平成19年2月23日付)
- ・ 大阪薬科大学同窓会より協賛金
第45回～第47回 公開教育講座 (後援)
75万円 (1回25万円、3回分)
第23回～第24回 市民講座 (共催)
40万円 (1回20万円、2回分)

研究管理支援室

研究管理支援室は平成19年4月1日より研究管理支援に関する専門の窓口として共同研究センター (研究棟) に新設されました。

専任職員は1名ですが、共同研究センターにはR1研究施設、動物関連研究施設、中央機器研究施設などがあり、それぞれに関連する各種委員会が設置されており、規程の制定・改正や委員会の開催など研究管理支援室の業務は多岐にわたっています。

また、ハイテク・リサーチ・センター関連業務としては、シンポジウムの開催、研究報告書の作成や勉強会なども担当しています。

1. 規程について

- 共同研究センター規程 (改正)
- 中央機器研究施設規程 (新規制定)
- 中央機器研究施設利用規程 (新規制定)
- 中央機器研究施設利用者委員会規程 (新規制定)
- 動物実験規程 (改正)
- 研究倫理審査委員会規程 (改正)

(注) 正式な規程名には全て大阪薬科大学を冠しています。

2. 動物実験について

本学では動物愛護法の*3R (Reduction, Replacement, Refinement) の精神に則り、適正

に動物実験を行っています。

また、例年12月初旬には実験動物慰霊祭を行い、動物の犠牲に対する深い思いやりと感謝を忘れないように全学を挙げて取り組んでいます。

平成18年度の動物実験の概要は、以下の通りです。

- 実験従事者：研究者総数288名
(教員、大学院生、学部学生等)
学部学生実習生 (1年次生および3年次生)
- 教育・研究において使用した実験動物：
総数12,512匹 (ウサギ、モルモット、マウス、ラット等)

*3R (Reduction, Replacement, Refinement)
動物愛護法においては、「科学上の利用の目的を達することができる範囲において、できる限り動物を供する方法に代わり得るものを利用すること、できる限りその利用に供される動物の数を少なくすること等により」、「その利用に必要な限度において、できる限りその動物に苦痛を与えない方法によって」とされています。

3. ハイテク・リサーチ・センターについて

- シンポジウムの開催
- ホームページの刷新

キャリアサポート課

【卒業後3年の就職動向アンケート調査結果報告ー平成15年度卒業生（51期生）調査結果ー】

本学ではますます多様化・高度化する薬業界の動向やニーズを的確に知り、学生の進路・就職指導に反映させるため、平成12年度（48期生）より卒業後3年を経過した本学OB・OGの方々のご協力を得て、卒後3年間

の就職状況に関するアンケート調査を実施しています。そこで本年も、51期生にお願いして同じ調査を実施させていただきました。その結果、次のような調査結果を得ることができましたのでご報告いたします。

■アンケート対象：258名（9月卒業を含む）

■アンケート回答者数：79名（30.6%）

I. 卒業後、転職しましたか？

1. 転職した 17名（21.5%） 2. 転職していない 61名（77.2%） ※未記入1名（1.3%）現在大学院生

II. 転職した方のみ、ご回答ください。

1. 卒業後から現在の就職状況の変遷について

<卒後>	<転職>	<再転職>	<再々転職>	人数	転職理由	勤務年数
調剤薬局	→ 調剤薬局			5名	その他（社風）	（5ヶ月→現在）
					人間関係 その他	（1年6ヶ月→現在）
					人間関係・待遇	（1年8ヶ月→現在）
					家庭の事情 その他	（2年→現在）
					その他（ストレス）	（2年6ヶ月→現在）
調剤薬局	→ ドラッグストア			1名	家庭の事情	（11ヶ月→現在）
ドラッグストア	→ 調剤薬局			3名	待遇	（1年9ヶ月→現在）
					その他	（2年→現在）
					勤務地	（2年6ヶ月→現在）
病院	→ 病院			4名	人間関係 家庭の事情	（1年6ヶ月→現在）
					勤務地	（2年2ヶ月→現在）
					その他 先輩からの誘い	（2年2ヶ月→現在）
					待遇	（2年8ヶ月→現在）
病院	→ 病院 → 病院			1名	待遇・リストラ	（1年8ヶ月→10ヶ月→現在）
企業（MR）	→ 病院			1名	人間関係	（1年→現在）
企業（MR）	→ その他（派遣：客室乗務員）			1名	人間関係	（3年→現在）
企業（内勤）	→ 病院			1名	人事制度	（1年9ヶ月→現在）

【卒後から転職までの平均】 ※全平均（17人）22.6ヶ月

●調剤薬局（6人）／18.0ヶ月 ●ドラッグストア（3人）／25.0ヶ月 ●病院（5人）／26.4ヶ月

●MR（2人）／24.0ヶ月 ●企業内勤（1人）／21.0ヶ月

2. 転職された方は、その理由を教えてください（複数回答可）。

理由	件数	理由	件数	理由	件数
勤務地	2	人事制度	1	リストラ	1
人間関係	5	評価制度	0	家庭の事情	3
待遇	4	倒産	0	その他	6

※その他

- ・ストレスによる体調不良
- ・社風
- ・結婚
- ・先輩から誘いを受けた
- ・薬の品目が少なく勉強にならなかった

III. 今後、転職を考えていますか？

IV. 転職を考えている方は、その理由を教えてください（複数回答可）。

〔転職をした17名〕

1. 考えている 4名（23.5%）
2. 考えていない 13名（76.5%）

〔転職をしていない62名〕

1. 考えている 25名（40.3%）
2. 考えていない 36名（58.1%） ※無記入1名（1.6%）

理由	件数	理由	件数	理由	件数
勤務地	0	評価制度	0	その他	0
人間関係	0	倒産	0	無記入	0
待遇	3	リストラ	0		
人事制度	0	家庭の事情	1		

理由	件数	理由	件数	理由	件数
勤務地	5	評価制度	0	その他	14
人間関係	2	倒産	0	無記入	1
待遇	6	リストラ	0		
人事制度	1	家庭の事情	6		

※その他

- ・結婚
- ・転居
- ・自分の将来を考えて
- ・金銭面
- ・倒産しそう
- ・ステップ（キャリア）アップ
- ・結婚後続けられなさそう
- ・社風が良くない
- ・今の仕事にやりがいを感じられない
- ・勤務態勢（人員不足の為の激務）
- ・選択の1つとして機会があれば
- ・開発初期段階の医薬品を分析している為、後になって変異原性や女性禁忌等の毒性が分かることがあり、今後の身体への影響を考え退職予定

本調査によって、本学卒業生も卒後3年間で21.5%（50期生：25.6%）が転職していることが判明しました。今回は全国大学新卒者の3年後の動向（30%）に比して、やや少なくなっています。アンケート回答者51期生79名（30.6%）中、転職した17名を分析してみると、卒業後から最初の転職までの期間は平均22.6ヶ月で、50期生：14.5ヶ月、49期生：15.6ヶ月より延長傾向にあります。1年未満で転職した人は2名（11.8%）で、こちらも50期生9名（42.9%）、49期生2名（14.3%）より減少しています。最初の転職までの期間（平均）を見てみると、調剤薬局：18.0ヶ月／6名、ドラッグストア：25.0ヶ月／3名、病院：26.4ヶ月／5名、MR：24.0ヶ月／2名、企業内勤21.0ヶ月／1名でした。

今後の転職についても、3年以内に転職経験のある

17名中の4名（23.5%）が、さらには転職していない62名でも25名（40.3%）が転職を考慮中と回答しています。今後の転職意識も50期生、49期生とほぼ同様の傾向となっています。転職理由は、1：人間関係、2：待遇、3：家庭の事情、4：勤務地等となっています。

今回の結果から、キャリアサポートガイダンス、企業セミナー内容の充実、きめ細やかな職種別情報提供の必要性が示唆され、今後さらに、個人面接を充実させて学生一人ひとりに合った進路・就職支援を強化していきたいと考えています。

最後になりましたが、本調査にご協力いただきました平成15年度卒業生（51期生）の皆様、および本学同窓会事務局の方々に心からお礼申し上げます。

学生課

マナーの向上、ルールの厳守について

大阪薬大生として皆さんには大きな期待が寄せられています。将来医療に携わる者として、皆さんは率先して社会的規範を守らなければなりません。「ちょっとだけ、自分だけ」と思ってしているマナー違反は周りの人を不快な気持ちにさせるものです。「相手（周りの人）を思い遣る気持ちを持っているか」を基準にして行動してみませんか。その他の社会的ルール、マナーやエチケットを守って、品性を高める努力をしましょう！

【バスなど公共交通機関では】

- ・お年寄り、体の不自由な人、体調のすぐれない人に率先して席を譲る
- ・静かにすることを心がける

【交通マナー・法規の遵守】

- ・原付での2人乗りはしない
- ・運転中に携帯電話を使用しない
- ・飲酒運転は絶対しない → 危険であり自分の将来を閉ざすことにも繋がります

【日常のこと】

- ・公共のもの（自分のもの以外のもの）を大切に扱う
- ・暗くなったら戸外では小声で話をする。大学敷地内でも注意してください
- ・白衣での食堂利用はマナー違反です
- ・喫煙のマナーを守る
- ・空き缶などを放置しない

食事場所の拡充について

食堂・喫茶の混雑緩和と、談話室としての利用のため、9月14日（金）より下記の場所を開放していますので活用してください。なお、クラブ活動等により利用できない場合がありますので注意してください（その場合は掲示でお知らせします）。

場 所：大学会館2階ホール

開放時間：10:40～14:40

カルト団体の勧誘活動について

最近、カルト団体による大学生に対する勧誘活動が、マスコミ等で報道されています。学生のみならず、このようなカルト団体の勧誘には十分注意してください。

これらの団体は、最初は活動内容を明かさずに、スポーツや文化系のサークル活動であるように偽って勧誘し、信頼関係を築いてから団体の教義を教え込んでゆき、知らず知らずの内にマインドコントロールを行います。カルト団体に入会してしまいますと、人格を破壊されるばかりでなく、精神的・肉体的・経済的にも大きな負担となり、皆さんの大切な学生生活のみならず、一生が台無しになってしまいます。

これらの団体は、学生を対象に巧妙な手口で声をかけてきますので、学内・学外を問わず何かを勧誘されることがあれば「カルト団体の勧誘」かも知れないことを念頭に置いて、少しでも怪しいと感じたらきっぱりと断ってください。

奨学生状況

1. 日本学生支援機構

平成19年10月1日現在

区 分	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	合 計
第 一 種	28	46	39	32	23	168
月 額	自 宅 54,000	53,000	53,000	51,000	88,000~	
	自宅外 64,000	63,000	63,000	61,000	122,000	
第 二 種	63	82	88	67	12	312
月 額 (薬学課程増額月額)	3万・5万・8万・10万円から選択 (10万円を選択した場合は2万円の増額可)				5万・8万・ 10万・13万 円から選択	
合 計	91	128	127	99	35	480

2. その他の育英・奨学会

区 分	月額 (円)	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	合 計	給付・貸与
(財) 小野奨学会	学部 30,000 大学院 60,000	5	2	1	1	7	16	給付
(財) 河内奨学財団	40,000	0	0	0	1	-	1	給付
(財) 佐藤奨学会	19,500	1	0	0	0	-	1	給付
(財) 森下仁丹奨学会	30,000	-	-	-	-	1	1	給付
大阪薬科大学一般奨学金	学部 50,000 大学院 60,000	5	3	3	1	2	14	一部給付
大阪薬科大学育友会奨学会	40,000又は 80,000	0	3	1	1	1	6	貸与
合 計		11	8	5	4	11	39	

「関西薬連大会・全国薬連大会」結果 (平成19年度)

◆ 関西薬連大会

部 名	団 体	個 人
剣 道 部	男子	3位
	女子	1位
	新人戦	3位
硬式庭球部	男子	7位
	女子	4位
硬式野球部		シングルス/2位: 神谷麻琴①
サッカー部		4位
柔 道 部	男子	1位
	女子	-----
ソフトテニス部	男子	5位
	女子	2位
卓 球 部	男子	-----
	女子	-----
バスケットボール部	男子	4位
	女子	4位
バドミントン部	男子	8位
	女子	6位
バレーボール部	男子	1位
	女子	1位
陸上競技部	総合	男子3位、女子3位
	男子	フィールド
	女子	トラック

注) ○内は学年

◆ 全国薬連大会

部 名	団 体	個 人
剣 道 部	男子	ベスト8
	女子	3位
ソフトテニス部	男子	4位
	女子	2位
卓 球 部	男子	-----
	女子	-----
バスケットボール部	男子	2位
	女子	ベスト10

注) ○内は学年



感染症に関して 学生の皆さんへ

★今年の春、大勢の学生が麻疹に感染し、四国地方では百日せきに感染した学生が出現したため、各大学では休講措置を取るなどして感染の拡大を防ぎました。特に医療系の学生である皆さんは『感染させない・感染しない』ためにも予防が大切になります。下記を参照にして自分が受けた予防接種の種類・接種時期、又罹患した感染症等をご父母や母子健康手帳等から確認し把握しておいてください。

予防接種法で義務付けられている定期接種	=	ジフテリア/百日せき/破傷風(4種混合ワクチン,DPT)/麻疹/風疹 日本脳炎/ポリオ(急性灰白髄炎)/結核(BCG)
予防接種法で希望者が各自で受ける任意接種	=	インフルエンザ/流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)/水痘/A・B型肝炎/肺炎球菌/狂犬病
ワクチンで予防可能な疾患	=	・A型肝炎/B型肝炎/インフルエンザ/黄熱/流行性耳下腺炎(おたふくかぜ) ・狂犬病/結核/コレラ/ジフテリア/水痘/天然痘/日本脳炎/肺炎球菌感染症 ・破傷風/百日せき/風疹/ポリオ/麻疹

腹囲測定について 職員(40歳以上)の皆さんへ

★労働安全衛生法及び学校保健法の一部改正に伴い2008年4月より特定健康診査の項目に腹囲測定が追加されます。

目的

生活習慣病の危険性が高まるメタボリック症候群(内臓脂肪症候群)の指標となる腹囲測定を義務化し、生活習慣病予備軍への健診・保健指導を実施し発病や医療費を抑える。



メタボリック症候群(内臓脂肪症候群)とは

*お腹のまわりの内臓(腸や肝臓)に脂肪が蓄積すると内臓脂肪型肥満になります。この内臓脂肪型肥満と高血糖、高血圧、脂質異常のうちいずれか2つ以上合わせもった状態を言う。

メタボリック症候群の診断基準

内臓脂肪蓄積(腹囲値)	+	(次の3項目のうち2つ以上)
男 85cm以上		・高血糖(空腹時血糖値) 110mg/dL以上
女 90cm以上		・高血圧(最高血圧130mmHg以上/最低血圧85mmHg以上のいずれか、又は両方) ・脂質異常(中性脂肪 150mg/dL以上、HDLc 40mg/dL未満のいずれか、又は両方)

【メタボリックシンドロームのCheck!】は下記へ!
<http://metabolic.jp/metabolic06.htm>

Webで簡単に判定が...一度挑戦してみてください

Let's try!

- * 診断基準に該当する方はCTスキャンなどで内臓脂肪量測定をお勧めします。
- * 腹囲は軽呼吸時にお臍のまわりを測定します。

参考資料・予防接種法
・日本内科学会雑誌

図書課

()新図書館入退館システムの導入

図書館では、図書館入退館(ゲート)システムが古くなり、また、ICカード(学生証・職員証)で入館できるようにするため、平成19年3月に、システムを新機種(EnterPro)に変更しました。

これに伴い、入館者の管理が容易になり、また、ブックディテクション(貸出未処理図書の持出検出)機能も確実に became ました。



平成19年度 後期行事予定
〈学部〉

平成19年

- 8.28(火) 前期再試験受験者発表(1~3年次生)
 8.31(金) 前期再試験(4年次生・1~4年次全科目)
 } 9月8日(土)を含む
 9.12(水) 9月8日(土)を含む
 8.31(金) 平成20年度大学院修士課程一般入学試験合格者発表
 9.3(月) 前期再試験(1~3年次生)
 } 9月8日(土)を含む
 9.12(水) * * * * *
 9.14(金) 後期授業開始(1~3年次生)
 9.14(金) キャリアサポートガイダンス[学内企業セミナー(研究職・開発職等を中心として)]
 9.18(火) 月曜講義の振替開講日(1~3年次生)
 9.19(水) } 第2回薬学総合演習総合試験(4年次生)
 9.20(木)
 9.21(金) 特別再試験 受験者発表(4年次生)
 9.26(水) 後期選択科目(1~3年次生)履修届提出締切(教務課)午後3時
 10.1(月) キャリアサポートガイダンス(3年次生)
 10.12(金) 平成20年度(第2次)大学院修士課程一般入学試験
 10.15(月) } 特別再試験(4年次生)この期間の月曜日
 12.10(月)
 10.19(金) 平成20年度(第2次)大学院修士課程一般入学試験合格者発表
 10.20(土) } 第3回薬学総合演習総合試験(4年次生)
 10.22(月)
 11.1(木) 第42回大薬祭準備(午後臨時休講)
 11.2(金) } 第42回大薬祭等(臨時休講)
 11.4(日)
 11.5(月) 第42回大薬祭後片付け(1~3年次生臨時休講)
 11.10(土) 平成20年度公募制推薦入学試験(S方式)・帰国生徒特別選抜入学試験(K方式)
 11.17(土) 平成20年度指定校制推薦入学試験(R方式)
 11.21(水) 平成20年度公募制推薦入学試験(S方式)・指定校制推薦入学試験(R方式)
 帰国生徒特別選抜入学試験(K方式)合格者発表
 11.24(土) } 第4回薬学総合演習総合試験(4年次生)
 11.26(月)
 11.29(木) キャリアサポートガイダンス(3年次生)[学内企業セミナー(薬業関連企業)]
 12.8(土) 平成20年度編入学試験(H方式)
 12.12(水) 実験動物慰霊祭
 12.15(土) 平成19年度長期病院実務実習報告会(4年次生長期病院実務実習コース)
 12.18(火) 平成20年度編入学試験(H方式)合格者発表
 12.19(水) キャリアサポートガイダンス(3年次生)[学内企業セミナー(薬局・ドラッグストア)]
 12.20(木) } 第5回薬学総合演習総合試験(4年次生)
 12.21(金)
 12.21(金) 後期授業年内終了(1~3年次生)

平成20年

- 1.7(月) 後期授業再開(1~3年次生)
 1.8(火) 月曜講義の振替開講日(1~3年次生)
 後期授業終了(1~3年次生)
 1.9(水) } 後期授業予備日
 1.11(金)
 1.15(火) } 後期定期試験(1~3年次生)
 1.28(月)
 1.18(金) 平成20年度大学入試センター試験実施準備(午後)
 1.19(土) 平成20年度大学入試センター試験
 } [センター試験利用入学試験(C方式)]
 1.20(日)
 1.29(火) 後期定期試験(1~3年次生)欠席届提出締切(教務課)午後1時
 2.1(金) 平成20年度一般入学試験I(F方式)[本学・駿台予備学校大阪南校・広島RCC文化センター・高松商工会議所会館]
 2.4(月) } 薬学総合演習正規試験1(4年次生)
 2.5(火)
 2.6(水) 後期再試験 受験者発表(1~3年次生)
 2.7(木) 平成20年度一般入学試験I(F方式)合格者発表
 2.9(土) 平成20年度一般入学試験II(G方式)(本学・駿台予備学校大阪南校・広島RCC文化センター)
 2.12(火) } 後期再試験(1~3年次生)2月16日(土)を含む
 2.22(金)
 2.13(水) } 薬学総合演習正規試験2(4年次生)
 2.14(木)
 2.16(土) 平成20年度センター試験利用入学試験(C方式)・一般入学試験II(G方式)合格者発表
 2.21(木) } 薬剤師国家試験全国統一模擬試験(4年次生)
 2.22(金)
 2.22(金) 卒業生発表(教務課)
 2.25(月) 特別再試験 受験者発表(3年次生)
 3.3(月) } 特別再試験(3年次生)
 3.6(木)
 3.8(土) } 第93回薬剤師国家試験(厚生労働省)
 3.9(日)
 3.14(金) 進級者発表・未修得科目発表(教務課)
 3.15(土) 第55期学部学位記授与式および第32期大学院学位記授与式

平成19年度 後期行事予定 (大学院)

平成19年

9.21(金) 後期特論開始
9.27(木) 後期特論選択科目履修届提出締切 午後3時
(教務課)

10.1(月) 平成20年度(第2次)修士課程一般入学試験
10.5(金) 出願受付
10.12(金) 平成20年度(第2次)修士課程一般入学試験
10.19(金) 平成20年度(第2次)修士課程一般入学試験
合格者発表
10.19(金) 大学院特待奨学生選考(申請者発表会)
12.17(月) 後期特論終了

平成20年

1.18(金) 平成20年度博士後期課程入学試験出願受付
1.25(金)

2.5(火) 平成20年度博士後期課程入学試験
2.13(水) 修士学位論文提出期限 午後1時(教務課)
2.15(金) 平成20年度博士後期課程入学試験合格者発表

2.26(火) 修士学位論文発表会
2.27(水)

3.7(金) 平成19年度修士課程修了者発表
3.15(土) 第32期大学院学位記授与式

学位授与

[博士]

論博第49号 博士(薬学) 山下 潤二
腎虚血・再灌流障害の病態発症および進展機構に
関する研究

(平成19年7月4日付)

論博第50号 博士(薬学) 金 啓二
C型慢性肝炎に対するインターフェロン治療に関
する研究

(平成19年7月4日付)

[学士]

学士(薬学) 薬学科 12名 製薬学科 28名
男子 20名 女子 20名 合計 40名
(平成19年9月30日付)

入試・広報課

オープンキャンパスを実施しました

近年、夏の恒例行事となりましたオープンキャンパスは、本年度も3日間〔7月28日(土)、29日(日)、8月18日(土)〕開催し、受験生を中心に延べ約941名の参加がありました。

当日は、まず学長より挨拶の後、本学紹介のビデオ上映、続いて、入試副委員長から「平成20年度入試概要」、キャリアサポート部長から「進路(就職・大学院進学)状況」などについて説明がありました。全体説明の後には、自由に参加できる「模擬実験」「各研究室による特別実験」のほか、本学在生による「学内見学ツアー」や、本学教員による「個別相談」のコーナー等、単なる入試説明だけに留まらず、『大阪薬科大学』とほどのような大学か?を感じてもらえるように工夫をこらしました。

アンケートによると、回答者の8割以上の方が「大変満足」「満足」と、概ね好評を得たようです。中でも、在生による学内見学ツアーは、「学生誘導スタッフがとても親切だった」「年齢が比較的近くて親しみやすかった」「学生の『生の声』が聞けて良かった」と好評でした。例年、案内係の学生を見失うという意見があり、今年度は全員にシンボルマークがデザインされたオリジナルTシャツを着用してもらったことも順調にいった一因かもしれません。そして、昨年度に引き続き用意した無料送迎バス(JR摂津富田駅・大学間)も、利用者には大変好評でした。

また本年度は、11月3日(祝)にミニオープンキャンパスを大葉祭と同時開催し、受験生に本学のことをもっとよく知っていただく機会を設けました。告知も行き届かなかったのですが、60名を超える参加者がありまし

た。今後も、これら参加者のご意見等を踏まえ、多くの人に本学をより一層知ってもらえるよう、より一層充実させていきたいと思えます。



進学説明



模擬実験

平成20年度大学院薬学研究科博士前期課程 (修士課程) 入学試験結果

試験の種類	※募集人員	薬学コース			臨床薬学コース		
		志願者数	受験者数	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数
推薦入学試験	16	15	15	15	1	1	1
一般入学試験(1次)	24	80	75	68	16	16	12
一般入学試験(2次)	若干名	4	3	3	4	4	4

※臨床薬学コースを含む

平成20年度大学院薬学研究科博士後期課程 (博士課程) 入学試験

(一般入試)

募集人員 5名
出願期間 平成20年1月18日(金)～1月25日(金)
学力試験 2月5日(火)〔外国語科目(英語)、専攻分野及び修士論文を中心とする口述試験、面接)
合格発表 2月15日(金)

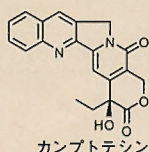
薬用植物の紹介

喜樹

Camptotheca acuminata Decne.

喜樹（カレンボク）はNyssaceae（ヌマミズキ科）の中国原産の落葉高木で、高さは30mにも達する。この植物との最初の出会いは1981年の夏に中国科学院上海薬物研究所を訪れた際に、その庭園に植物標本として植栽された樹が空高く茂っているのを見学した時と記憶している。当時、同研究所員がこの木を中国の誇りとして、説明してくれたのが印象的であった。現在本学に植栽されているものは1983年に京都大学の薬用植物園の幼木を数本譲り受けたものの子孫にあたる。松原学舎時代は中庭の西側、クラブハウスの前、河合薬用植物園の入り口あたりにあり、大学移転までの間に、3階建ての校舎を遙かに凌ぐ高さまで成長していた。当時、薬品製造学教室（現、薬品合成化学研究室）がカンプトテシン関連の研究を遂行されていたこともあり、助手の米田さんにこの木のことを話したところ、大変驚いておられた。

喜樹は成長が極めて早く、4～5年もすると10mぐらいに達する。4月中旬頃、枝先に若葉が芽吹く。濃い緑色の葉は互生し、紙質、楕円状卵形あるいは長楕円形で、長さ10～25cm、幅6～12cm、先端は短く鋭く、全縁あるいはやや波状で光沢がある。裏面の葉脈が密で、明瞭なのが特徴である。花は雌雄同株で、緑白色、柄が無く、多数が球状の頭花をなしており、直径4cmぐらいで7月頃に開花し、10～11月頃に瘦果が多数放射状に集まった球状の花序となって、枝先に下垂し結実する。この植物は長江の近辺、それ以南の地域（江西、浙江、湖北、四川、雲南、貴州、広西の各省など）に広範囲に分布するが、一般に日当たりが良く、温暖を好み、寒さには弱い。土壌が深く、肥沃で水はけの良い砂質か粘土質の土壌でよく生育するようである。喜樹は「浙江民間常用草薬」に収載され、古くは「植物名実図考」に早蓮（カンレン）



として見ることが出来る。このほかにも多くの異名があり水栗、水桐樹、天梓樹、張樹、野芭蕉、水獺子、南京梧桐な

どの名がある。全株にカンプトテシン、ペノテルピン、10種のエラグ酸誘導体を含み、樹幹には10-ヒドロキシカンプトテシン、10-メトキシカンプトテシンを含む。果実にはこのほかに11-メトキシカンプトテシン、デオキシカンプトテシン、ピンコシド-ラクタムなどを含む。カンプトテシンはトリプタミンとセコログニンから生合成されるが、これまでにヌマミズキ科のほか、クロタキカズラ科、キョウチクトウ科、アカネ科からも見いだされている。

カンプトテシンは米国National Cancer Institute (NCI) により大規模に実施された抗腫瘍活性天然物の探索過程で、1966年にM.E.WallとM.C.Wani等により単離されたキノリン系アルカロイドで、マウスの実験がんであるL1210白血病に対して、極めて強い抗腫瘍性が確認された。しかしながら、水に溶けず、製剤化が困難な上、骨髄機能抑制作用による重篤な副作用が強いことから、一時は開発研究が断念された。その後、我が国の研究陣により多くの誘導体が合成され、作用点として必須のラクトン環を保存し、薬用量と中毒量の差を大きくし、水溶性であるプロドラッグとして理想的な誘導体、塩酸イリノテカンや塩酸ノギテカンの開発が行われ、現在、抗腫瘍薬として実用化されている。イリノテカンは塩酸塩としたことにより水溶性誘導体となり、体内に吸収された後、肝臓のエステラーゼでカルバメート基が加水分解され、7-エトキシ-10ヒドロキシ-カンプトテシンになり制がん作用を発現する。特に、小細胞肺がん、子宮頸がん、卵巣がん、胃がん、結腸・直腸がん、乳がんなどに卓効がある。カンプトテシン類はI型DNAトポイソメラーゼとDNAの共有結合複合体に作用し、これを安定化し、DNA合成を阻害することにより抗腫瘍効果を発揮する新しいタイプの制がん剤である。

（薬用植物園長 馬場きみ江）



喜樹

発行
大阪薬科大学広報委員会

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4-20-1
TEL (072) 690-1019(入試・広報課)
FAX (072) 690-1018(")
URL <http://www.oups.ac.jp/>